

中国農村部における女性役割の転換

——「陪読」農村女性の語りを手掛かりに——

○鄭 怡（京都大学）

昨今、中国では「陪読」という現象が増加の一途をたどっている。本研究での「陪読」とは、子どもをより良い学校に通わせるために、農村家庭の大人が子どもと一緒に都市部に移住し、そこで家を借り、子どもの身の回りの世話をすることである。1978年に改革開放政策が始まって以降、中国の経済的・社会的な格差が拡大されつつある。農民工のように低所得で、都市の教育・医療資源を利用できず、農村戸籍に苦しめられる低所得者層も大量に生み出されていた。このような中で、農村家庭は子どもの教育に目を光らせようになった。教育は、農村部の人にとって人的資本を蓄積し、階層上昇を実現し、順調に子どもを社会に溶け込ませる手段となった。そのため、子どもにとって平等かつ優良な教育機会を得ることが非常に重要であり、子どもをより良い学校に通わせることは農民が子どもの階層を移動させるうえでもっともアクセスしやすい方法である。その結果、中国では農村女性の「陪読」する現象が多く見られるようになり、しかも、その現象は増加の一途をたどっている。

社会主義政策により女性を家庭から社会に引き出した中国で、経済発展により女性役割がどのように転換しつつあるのか、特に農村部で女性役割がどのような変化を見せているのかという課題が等閑視され、取り残されてきた。中国都市部における女性役割の転換についての研究は数多く蓄積されてきた。しかし、農村部における女性役割の転換についての研究は遅れている。近年、「陪読」農村女性は注目を浴びるようになったが、「陪読」農村女性の女性役割認識および実践に関する研究は管見の限り見当たらない。中国政府は当初農業・農村を犠牲に工業・都市を優先的に発展させるようなマクロ戦略を推進していた。それゆえ、中国農村部の発展様式は都市部と異なる可能性が高く、女性役割の転換も独自の道を歩んでいることが推測できる。社会主義市場経済を標榜しながら経済的移行を積極的に実現している現代中国で、国家政策、社会環境、イデオロギー宣伝が激変するなかで、自分の高いとは言えない文化素養を余所に、子どもの教育に積極的に関わろうとする、「陪読」を選択した農村女性はどのように女性としての役割を認識し、それを実践しているのかということの解明する必要がある。

本研究ではオンラインでの半構造化インタビューを中心とした中国江西省農村地域の「陪読」女性たちからの聞き取りによって、上述した問いを解き明かしてきた。

結論を述べると、母役割を十分に遂行するために「陪読」を選択した中国農村部の女性は稼得役割より育児役割に、妻役割より母役割にウエイトを置いていることが彼女たちの語りからわかった。近代化しつつある現代中国では、ジェンダー規範がインフォーマントたちに内面化され、母親役割が再生産されていくことは今回の調査で明らかになった。近代化の流れにおける子どもの階層昇進という動機がむしろ母親規範、ジェンダー規範の形成および強化という皮肉な結果をもたらしている。

（キーワード：「陪読」、中国農村部、女性役割転換）